



春・宇都宮



夏・下野



民話でめぐる栃木の春夏秋冬



秋・大田原



冬・日光



はじめに

けんきゅうのきっかけ

ぼくはやぶさめを習っている。この前、海でやぶさめをしているふしぎな切手を見つけた。調べると那須与一という人で、ぼくの住む栃木県の人だった。

与一の民話も見つけて読んだ。民話のぶたいの場所に行ってみたらいろいろ発見して楽しかった。そして民話はその場所の歴史と、どうつながっているのか調べたくなった。

調べたいこと

栃木県にはどんな民話があって、その民話はどんな場所や歴史とどのようにつながっているのか。

調べ方

栃木県の県央・県南・那須・日光の有名な民話をえらんだ。民話をならべると、ぐうぜん春夏秋冬の季節に分かれていた。さらに、民話のぶたいの場所に行き、切手と見くらべながら調べた。

この作品の工夫

民話の場面を切手で絵本のように表現した。春夏秋冬のじゃんに栃木を旅するような作品にした。

やぶさめの先生
道産子のりょううん



栃木県



- 春
- 夏
- 秋
- 冬

春・夏・秋・冬に色分け

出典: 楽地図(栃木県白地図)をもとに作成

次は春
の民話!

孝子桜

①



昔、病気の父をかんびょうしながら、
山や畑で働く孝行な息子がいた。

②



冬が近づいてきたころ、父は「死ぬまでに
もう一度、桜が見たい」と言った。

③



息子は雨の日も、風の日も、雪の日も
大日様においのりした。

④



ある小雪のまいちる寒い朝、戸を開けると、
桜の花がものの見事にさいていた。

⑤



真っ白な世界の中にあわい桜のかおりが
ただよい、病気の父の心に春をよんだ。

⑥



今も孝子桜は、
城山西小学校の校庭にさいている。

自分の言葉でまとめた

出典：宇都宮市教育委員会社会教育課 編『宇都宮の民話』宇都宮市教育委員会、1983年



城山西小学校の孝子桜（宇都宮）。子どもたちが、お琴で「さくらさくら」をえんそうしていた。

次は宇都宮を
たんけん！

宇都宮の春～言葉のまち～

宇都宮城



5代目城主・宇都宮頼
綱は百人一首が生まれ
るさっかけになった。

宇都宮歌だんを作り
和歌文化も花開かせた。
ぼくは百人一首がます
ますすきになった。

かま川



かま川の桜は野口雨情
の屋しきの子どもの桜。
「シャボン玉」「あの
町この町」は雨情の歌。

二荒山神社



宇都宮歌だんの和歌は神
様にささげられていた。昔の
和歌集が今も神社にある。

与謝ぶそんもここに来て
俳句をよんだ。切手で大
発見！ぶそんは絵も上手。
びっくりした。

まとめ

宇都宮では、昔から和歌
俳句、歌などいであつちも
言葉にすることも大切に
してきたことが分かった。

孝子桜の民話が今でも語
りつがれているのはその
ためだろうなと思った。



二荒山神社前で小野小町のマンホール発見！

次は夏
の民話！

てんぐと雷神

①



昔、薬師寺のあたりは「てんぐ山」とよばれ、てんぐが住んでいた。

②



てんぐは、「薬師寺に雷を落とさない」と言って村をまもっていた。

③



ある日、てんぐは「ねすがたを見るな」と言って、ねどこへ行った。

④



でも、村の人は見てしまった。てんぐはどこかへいなくなった。

⑤



その後、薬師寺にも雷が落ちるようになったと言われている。



自分の言葉でまとめた

出典：柏村祐司『雷さまをめぐる民俗』随想舎、2021年



民話のふたい・雷電神社（下野）。てんぐは、ここでねていたのかな。

次は下野を
たんけん！

下野の夏～雷様のめぐみ

雷様とかんぴょう作り



下野では夏に雷が多い。みんなは雷を「らいさま」とよんで大切にしてきた。

かんぴょうは夏の暑さと水が大すき。下野の夏の暑さと雷雨のおかげで、夕顔が育って日本一のかんぴょうの産地になった。



(上)夕顔さんと夕顔のつる！

(下)手かんぴょうむき！こんなに長くむけた！（下野）

雷様のめぐみひろし



(上)ばあばと一緒にひまわり畑！めいろもあったよ！（野木町）

(下)切手そっくりの写真をとった！（つがの里）

まとめ

下野では、雷様をこめがるだけでなく、神様として大切にしてきた。

雷様のめぐみに感謝して工夫して生活してきたことが分かった。



かんぴょうたつぷりの太巻きを作った！

コラム 切手から見つけた大発見！

かんぴょうをはしている絵の切手を見つけた。切手には「水口」と書いてあった。へんだな。かんぴょうといえば栃木県じゃないのかな。調べると、昔、近江の国（今のしが県）の藩主が下野へ来た時、夕顔のたねを取りよせ、植えさせたそう。栃木の気候が夕顔にぴったりで、日本一の産地になったことを知った。切手から大発見だ。切手ってすごいな。



ひばりのつめ

①



昔、那須与一がまだ子どものころ、どんな物をねらっても、弓は百発百中だった。

②



そこで、空をとび、さえずっているひばりのつめを打ち落とすことにした。

③



そして、千羽分のつめをあつめ、頼朝さまにさしあげようと考えた。

④



やがて、金のひばりがあらわれた。与一は打ち落とせず、ついに病気になった。

⑤



ある夜、女のすがたになった金のひばりがあらわれ、仲間の苦しみを教えた。

⑥



いつの間にか与一はあせをぐっしょりかき、なみだをいっぱい流していた。

自分の言葉でまとめた

出典：日向野徳久『栃木の民話 第二集』未来社、1965年

民話のぶたい (大田原)



与一がおうぎの的で、しょうりをいのった那須神社 (大田原)。やぶさめや菊まつりが行われる。

次は大田原を
たんけん!

大田原の秋 ～ 学びのまち

大雄寺



雲巖寺



黒羽藩11代目藩主・大関増業のおはかがある。大関氏は村中の子どもが学ぶ学校「作新館」を作った。

日本のナインゲール・大関和は作新館で学んだ。

作新館は今の黒羽小学校。学びのでんとうは今もうけつがれている。

松尾ばしょうが俳句をよんだお寺。「おくの細道の旅ひは学ぶことも大切にすゝ黒羽に二週間もいた。

ぼくが行った日は、全国俳句大会が開かれていた。俳句の文化が今もうけつがれていることが分かった。



まとめ

大田原は黒羽藩が大切にしたい学ぶことも、今でも大事にしていることが分かった。

ばしょうが那須・大田原でよんだ俳句の切手！

次は冬の民話！

コラム 切手から見つけた大発見！

「ひばり」の切手を見つけたら、「イワヒバリ」だった。ちがう鳥だとがっかりした。でも、調べるとイワヒバリは、那須の茶臼岳にすむ鳥だと分かった。那須与一は茶臼岳で弓の練習をしたのではないかと、本で読んだ。そして、イワヒバリは秋には低い場所へおりてくることも知った。そこでぼくは、「与一がねらったのはイワヒバリで、練習した季節は秋だったのかな」と想ぞうした。だから、「ひばりのつめ」を秋の民話としてしょうかいすることにした。切手から大発見だ。想ぞうがふくらんで楽しかった。



五郎びつ

①



昔、五郎という石屋がいた。岩山の石でかまどを作り、農家に売ってくらしていた。

②



仕事のあいまに大きな石の米びつを作り、ききんにそなえて、米をためていた。

③



ある大凶作の年、五郎は米びつの米を全部、村人に分けあたえた。

④



そして「おらのことはしんぺえねえよ」と言い、岩山へ上って帰ってこなかった。

⑤



今では五郎のたましいにいのると雨がふり、農作物をすくってくれるとされている。

自分の言葉でまとめた

出典：日向野徳久『栃木の民話 第二集』未来社、1965年



次は日光を
たんけん！

民話のふたい・小百のたな田（日光）。五郎の石びつがある山の中までは、山ビルが多くて行けなかった。

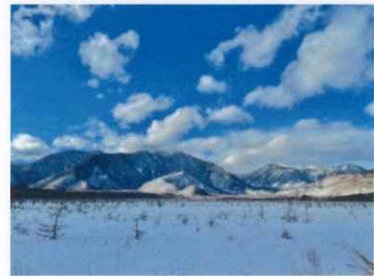
日光の冬 ～ 山の神様のまち～

日光二荒山神社



男体山を神様として大切
にしてきた神社。

日光輪王寺



日光の山やまを大切に
しているお寺。

山のめぐみとくらし



(上)ミニかまくら！きれいだな！
(下)スキー大好き！雪山のけしきは最高！

まとめ

日光では、山の神様を
大切にして、山のめぐ
みに感しゃして、エ夫
して生活してきたこと
が分かった。

ぼくも山に神様かいる
なとよく思うからなっ
とくした。

コラム 切手を見くらべて大発見！

5月に日光東照宮へ、ちょうこくの動物さがしに出かけた。ぼくがすきなのは、ねむり猫だ。この前、ねむり猫の切手を見つけた。「そうそう、これだ。名前は『ねむり猫』なのに歩き出しそうな猫！」またもう一枚見つけた。今度のねむり猫はすやすやねていた。あれ？同じ猫なのか？調べると、見る角度によってねむっていたり、歩き出しそうに見えたりすることが分かった。切手で大発見だ！左甚五郎はやっぱり名人だと思った。



歩いて見つけた栃木の四季



- 春 (上) 竹林で竹はんごうをした (若竹の杜・宇都宮)
 (中) 大谷石を加工した。大谷も桜の名所 (大谷・宇都宮)
 (下) モリアオガエルの卵を発見! (尚仁沢名水パーク・塩谷)
 夏 (上) はたおりの神様の七夕まつり (織姫神社・足利)
 (中) 風りんまつり (下野厄除大師・下野)
 (下) トラフズクの赤ちゃんを発見! (渡良瀬遊水地・栃木)
 秋 (上) 黒羽藩のもようて組ひもを作った (大間社中・大田原)
 (中) あゆのやなを見に行った (黒羽観光やな・大田原)
 (下) ムササビを発見! (栃木県民の森・矢板)
 冬 (上) 日光東照宮のご神馬 (日光馬事センター・日光)
 (下) スケート大好き (霧降アイスアリーナ・日光)

研究で分かったこと

ぐうぜん見つけた一枚の切手がきっかけで、ぼくは栃木のいろいろな場所にたんけんに行った。民話のぶたにいってみると、それぞれの場所でも人びとが昔から大切にしてきた歴史や文化が今も受けつがれていることが分かった。そしてなぜ4つの民話が大切にされているのかも分かった。

春の宇都宮は言葉、夏の下野は雷様、秋の大田原は学び、冬の日光は山の神様を大切にしてくらしていた。

ぼくは、切手は手紙を送るためのものだと思って、いた。でも切手を見て「どうしてだろう」と思っていて調べると、いろいろな歴史や文化が見えてきた。切手っておもしろい。切手が好きになった。これから切手を見て「どうしてだろう」と思ったらどんどん調べていきたい。

参考にしたもの

本

- ・『もっと知りたい！宇都宮「宇都宮学」』宇都宮市教育委員会、2025年
- ・『下野の雷さまをめぐる民俗』随想舎、2021年
- ・『わたしたちの日光市』日光市教育委員会、2024年
- ・那須与一伝承館館内資料
- ・黒羽芭蕉の館館内資料

ホームページ

- ・日本郵便、日本郵趣協会、スタマガネット

写真

- ・写真提供（P4、6、8、10）：とちぎ旅ネット、栃木県公式ホームページ、宇都宮市観光ナビ、日光市公式観光WEB
- ※その他は本人撮影

現地調査

民話と地域

（県央）城山西小学校、宇都宮城址公園、宇都宮二荒山神社、野口雨情旧居、若竹の杜・若山農場、マルオカ（大谷石工場）、尚仁沢名水パーク

（県南）下野薬師寺、下野雷電神社、しもつけ風土記の丘資料館、ゆうがおパーク、野木町ひまわり畑、つがの里ハス池、織姫神社、下野厄除大師、渡良瀬遊水地

（那須）那須神社、那須与一伝承館、大雄寺、大関和生誕の地記念碑、黒羽小学校、黒羽城址公園、雲巖寺、黒羽芭蕉の館、大関社中、黒羽観光やな、栃木県民の森

（日光）日光馬事センター、小百の石見棚田、日光二荒山神社、日光山輪王寺、日光東照宮、エーデルワイススキーリゾート、日光湯本温泉、霧降アイスアリーナ

切手

- ・文挾郵便局（日光市）、東武宇都宮駅前郵便局